



Rin Rin No.131

りんりんの会

りんりん通信 2023年3月発行

(乳がん体験者の会)

3月に入り暖かな春が、急に駆け足で飛び込んできたように感じる今日この頃です。



皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか？

コロナ禍での生活は、特に治療中の方々にとっては不安が大きく、孤独感も感じられた方もいらっしゃるのではないかと思います。りんりんでは昨年7月から感染対策を徹底しながら月1回の定例会を再開、対面での患者同士の情報交換の場をセッティングしてきましたが、最近では世の中の状況も少しずつ緩和されてきており、次年度は、活動の幅が少し広がるのでは？と期待に胸を膨らませているところです。次年度はお会いできる機会を増やししながら、患者さん同士の居心地の良い空間と話し合える仲間作りに力を入れたいと考えているりんりんです。

会員限定でのイベントも計画しておりますので、皆様、どうぞお楽しみに！

♪ 今後の活動についてお知らせ ♪

◆ 4/22(第4土) りんりん情報交換会&相談会

★ 開催場所：大崎市図書館 2階研修室

★ 開催時間：10:00~11:30

- こころん世代の方(40代頃までの患者様)も参加可能です。
- 事前申込が必要です。
- ご希望があれば「補整用パッド作り」も開催致します。材料準備の都合上、開催日1週間前までご予約をお願いします。

◆ 5/27(第4土) 総会&Dr 吉田の乳がん講座

★ 開催場所：大崎市図書館 2階研修室3

★ 開催時間：9:30~12:00

★ 参加対象：りんりんの会会員限定(事前申込不要)

- 開催に当たり、引き続き感染対策としてマスク・検温・手指消毒をお願い致します。
- 今回に限り、人数制限を考慮し、「会員の患者様限定」とさせて頂きました。



～りりん通信に寄せて No.56 ～



専門医

大崎市民病院乳腺外科科長 吉田龍一

専門医と聞くとみなさんはどのような医師をイメージするのでしょうか。

いわゆる名医とか神の手を持つ外科医とかでしょうか。

日本専門医機構という組織があるのですが、そこが言うには「専門医とは、それぞれの診療領域（診療科）において、標準的医療を提供でき、患者から信頼される医師」だそうです。つまり、決してスーパードクターや名医ではないという事です。ちなみに私は外科専門医であり、乳腺専門医です。実際、外科専門医とはいうものの、乳腺の手術以外に携わることは無く、新しい知見も乳がん以外のことはよく知りません。逆に消化器外科を生業としている先生方も外科専門医ですが、乳がんの最近の知見はほとんど知らないでしょう。これを訊いて、なんだ大した資格じゃないんだと専門医のイメージが変わった方もいるかもしれません。これにはからくりがあって、乳腺専門医を取得するためには外科専門医を取得していることが条件です。また、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科専門医の取得にも外科専門医の資格が必要です。つまり外科専門医が基本であり、それがあつての乳腺専門医という仕組みになっています。

日本では自由標榜性が取られています。医師が一人しかいないクリニックの看板に内科、皮膚科、小児科などと掲げられたりしていますよね。その医師は何らかの専門医かも知れませんが、内科、皮膚科、小児科全ての専門医を持っていることはまずあり得ません。つまり、標榜科と専門医は全く関係が無いという事を知っておいてください。

従来、専門医は各学会（日本外科学会、日本内科学会、日本皮膚科学会などなど）が認定した資格であり、しかも学会自体も多数乱立し、その資格条件は学会ごとまちまちで、専門医としての質が果たして担保されているのか疑問視されていました。そこで、各専門医を統括し質を担保するために日本専門医機構が設立されたという経緯があります。現在はまだ過渡期で流動的ですが、今後の専門医は専門医機構が認定したもののみとなります。そして、取得後も更新制度があり、日々研鑽しないと更新できないことで質を担保するものです。

国民側から見れば、そういう信頼できる制度であれば安心という面もあるでしょう。しかし、医師側からみると専門医はエキスパートになりたいという自己研鑽の目標でもある一方、無いよりあった方がいい、就職に有利とか一種のステータスのようなものでもあります。取得までは十分な知識と経験が必要で試験もありいろいろ大変ですが、更新は経験症例が一定数あり、各学会に出席、発表し、論文があればなおいいというようなもので、外科系であれば、手術が上手とか合併症が少ないとかは全く評価されないの、専門医だからといって手術がうまいとは限らないこともご承知ください。ましてや、すぐに見てくれるとか、いろいろ相談に乗ってくれるいい先生などという患者さん目線も評価の対象ではありません。これが本当に国民が求める専門医像なのかと思うところもあります。





また、医師が専門医を取得するメリットの一つに宣伝効果もあります。クリニックの看板に〇〇専門医と掲げてあれば比較的安心して受診できるのではないのでしょうか。しかし、専門医に診てもらっても研修医に診てもらっても診察代は変わりません。苦勞して取った割に報酬のメリットはないと言えます。そして、専門医になるための認定医療機関や研修指定病院（研修医が集まる）など各種認定施設になるためには専門医が常勤としていることが条件付けられており、私の場合は報酬の上乗せはありませんので、施設認定のために専門医を更新していると言っても過言ではありません。

また、専門医は大きな病院に多くいる傾向があるため、むしろ地方には専門医が少ない、あるいはいない病院が多く、地域間格差を広げている印象もあります。本来は地域間格差をなくするための専門医制度なのですが現実とは違います。

このように、みなさんが考えている専門医とはちょっとイメージが違うかも知れませんが、特定の領域に詳しいことは間違いありません。ただ、自分の領域以外のことはよくわからないのも専門医です。専門医ではなくても、いろんな領域に関してそれなりの知識と経験を持つ医師の方が患者さんにとってたのしいのではないのでしょうか。かかりつけ医などは本来そうあるべきだと思います。

私は、医師－患者関係には、普通の人付き合いと同じように相性というものがあると思います。同じ診療していたとしても、相性の悪い医師に当たると今ひとつ不安な気分になるのもわかります。患者さんからのクレームなどを見ていると、医療者の態度や口の利き方、身だしなみなど、医学と関係ないところで評価されることも多いと感じます。専門医かどうか大切ですが、相性がいいかどうか大切だと思います。



◆ 補整用パッド作り講習会のご案内

● 4/19(第3水)13:30～15:00

★ 開催場所：大崎市民病院がんサロン（※偶数月に開催中）

● 5/15(第3月)13:20～15:00

★ 開催場所：石巻赤十字病院プレストセンター（※奇数月に開催中）

- ※ 諸事情により大変申し訳ありませんが、参加可能人数を2名としております。
- ※ 平日の開催となりますので、ご都合が合わない場合は定例会(土)での参加も可能です。
- ※ 事前申込が必要です。(各サロンに申込書があります)参加費(材料キット代込)は当日。
- ※ 状況により中止や日程変更もありますのでご確認願います。



<事前参加申し込み・お問い合わせ>

● りんりん携帯 090-6259-9205 (金・土・日/対応可能)

✉ strinrin320@gmail.com

* 大崎市民病院 地域医療連携室のご協力を頂いて活動しています *

